

第3回文化財保存活用地域計画フォーラム 「三春の歴史的建物－『三春の宝物』再発見！－」抄録

1 日時 令和7年2月11日（火・祝） 13時～15時30分

2 場所 三春交流館「まほら」ホワイエ

3 登壇者・出席者

（登壇者）長田城治氏（郡山女子大学家政学部生活科学科建築デザイン専攻准教授、
歴史民俗資料館運営協議会委員、文化財保存活用地域計画策定協議会委員）

佐久間保一氏（一級建築士、ヘリテージマネージャー、文化財保護審議会委員、
文化財保存活用地域計画策定協議会委員）

（事務局）添田直彦教育長、嶋原健二生涯学習課長、西宏恵主査、渡邊日向会計年度任用職員

4 配布資料

- ・第3回文化財保存活用地域計画フォーラム「三春の歴史的建物－『三春の宝物』再発見！－」次第
- ・民家・神社のみかた、のしかた
- ・第3回文化財保存活用地域計画フォーラム（基調講演②配付資料）
- ・三春町文化財保存活用地域計画フォーラム ご意見シート

フォーラムの経過および要旨

1. 開会

2. 教育長あいさつ

本日はお忙しい中、第3回三春町文化財保存活用地域計画フォーラムにお集まりいただき、ありがとうございます。

三春町では、町内の文化財を、どのように保存し、どんなふうに活用していくのかといったことの方針を定める三春町文化財保存活用地域計画の策定に、昨年度末に着手し、令和8年度の文化庁認定を目指して、作業を進めています。その中で、町民の方々に、身近な文化財に興味を持っていただき、それを未来へ伝えていくことの意義をご理解いただくために、町の文化財保護審議会の委員の先生方に協力していただき、このようなフォーラムを開催しています。

3回目となる今回は、一級建築士で福島県のヘリテージマネージャーでもある佐久間保一先生と、歴史民俗資料館の運営協議会委員で、地域計画策定協議会の委員でもある郡山女子大学の長田城治先生に基調講演をいただきます。

佐久間先生は、長年、三春町で建築業にたずさわり、三春町住宅研究会でも建築物の調査をしてこられました。そして、長田先生は、旧吉田家住宅の国の文化財登録から、その活用事業でお世話になり、最近では町内の寺社建築の調査も進めていらっしゃいます。

建築物は、それ自体が文化財であるだけではなく、武家屋敷や民家であれば、古文書や着物、甲冑など、お寺や神社であれば、仏像や絵馬、さらにその建物の中で行われる祭りや行事など、さまざまな文化財を守り、育み、伝えてきた入れ物、場所でもあります。こうしたことから、単なる文化財ではなく、文化財を保存し、披露する場所を兼ねる、特殊な文化財である建築物について、全国的な傾向や、その中で三春の特徴についてのお話が伺えるかと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

3. 基調報告①「民家・神社のみかた、のこしかた」 長田城治准教授

【説明概要】

- ・クイズ形式で、民家、町家、社寺建築の年代推定等のポイントの説明。
- ・社寺の管理・保存のポイントの説明。
- ・参考資料として、「あなたにもできる！文化遺産日常管理マニュアル」の紹介（インターネットよりダウンロード可）

4. 基調報告②「三春の民家・町家の魅力とありかた」 佐久間保一先生

別紙「第3回文化財保存活用地域計画フォーラム」にそって説明

【説明概要】

- ・「三春の宝物」である三春の歴史的建物について、寺社仏閣、民家、町家等を写真を交えて紹介。
- ・歴史的建物の保存・活用の方法と、その問題について
- ・歴史的建物の保存・活用に関わる人々（ヘリテージマネージャー等）について

5. 意見交換(司会:渡邊日向会計年度任用職員)

(歴史的建物の活用方法について)

参加者) 遠藤病院や庚申坂の遊郭跡の活用方法について、先生方でなにかアイデアやご意見などがあればお聞かせ願いたい。庚申坂については、学生の研究の場とするなど、色々と案が出ていた頃もあったが、実現には至らなかった。

佐久間先生) 遠藤病院の場合は、例えば、建物の価値を認めてくれるような民間の企業が事業所として使うなどが考えられるのではないかな。

庚申坂の遊郭跡については、20年以上前に調査を行ったが、その際は活用方法までは提言できずに終わってしまった。下宿として使ったこともあったようだが、建物の性格上、活用のアイデアを出すのはすぐには難しい。

参加者) 遠藤医院については、例えば町長室として使うなど、役場機能を一部移してはどうか。

参加者) そもそも、中を見ないと活用のアイデアも出ないのではないかな。見学会などを開いてもらえないかな。

渡邊) 遠藤医院については個人の所有なので、見学は難しい。例えば、三春きたまち蔵は町の所有なので、見学の上アイデアを寄せていただくことはできるのではないかな。

佐久間先生) 町で企画して、建物の見学会の後に活用のアイデアをブレインストーミングの方式で考えるなどすると、いいものが出てくるのではないかな。

渡邊) 町で建物の見学会を実施するとなったら、佐久間先生と長田先生におかれては、ご協力いただけないかな。

長田准教授) 承知した。

佐久間先生) 承知した。皆さんとアイデアを共有していきたい。

渡邊) 中山家住宅の話も出たが、沢石の建物といえば、飛田家の建物も素晴らしい。飛田家は天日鷲神社の社家。建物も社家作りで、中には神様を祀ってある場所があるなど、とても素晴らしい建物なので、機会があったらぜひ見せていただけるとありがたい。

(若い世代への伝承について)

参加者) 今回の基調講演でお話しいただいたような事を、若い世代にも伝えるために、どういう工夫が考えられるか。特に長田先生におかれては、日常の教育の中で心がけている事など、なにかアドバイスがあればお聞きしたい。

長田准教授) まずは専門家がきちんと調査をした上で、その成果を皆さんにお伝えし、こんなところがすごく価値があったんだ、私達の街にもこんな素晴らしいものがあったんだ、と興味を持ってもらう、という基本的な取組を行うこと。私が携わっている教育活動では、学生と一緒に寺社の調査に行ったり、その調査結果を地域の方へ発表したりなどしている。

歴史的な建物を後世にどうやって繋いでいくのかは、一つは町が公共的な財産として残していくという方法と、民間で残していく方法の二つがある。その際に必要なのは人の能力、そして人の想いではないか。町が残していくにせよ、民間が残していくにせよ、その建物や文化、歴史に共感して、素晴らしいと思うから、税金を使って残す、あるいは投資をする、ということになる。どちらにしても、若い人の力が重要である。もし 20 代の人に興味を持って、保存活用の取組をしようと思ってもらえれば、それが 50 年も続く可能性がある。さらに、そこで子育てをして、それがまた新しい世代に繋がる可能性がある。また、SNS などを使った地域外への拡散力もある。

旧吉田家住宅の活用事業に関わっているが、イベントの場では、大人向けの建物解説だけではなく、建物を活用したレクリエーションを企画して、子供達も喜び、興味を持ってもらえるように工夫している。子どもと、さらにその親に興味を持ってもらえるようなものとしている。

歴史的な建物を後世に伝えるには、まずは基礎的な調査が必要であり、文化財保存活用地域計画策定は大きなチャンスであると考えている。建物の魅力を伝えていくには、誰かが汗をかかなくてはならないと、学生達にも伝えている。お住まいの地域に調査に伺った際は、ぜひ、ご協力いただきたい。

6. 閉会